

講演

毛皮國本の國家(下)

文學博士 坪井九馬三

今度はシベリアの事を申上げる。

シベリアの經營は随分古い事でありませう。初めは申すまでもなくホルガのコサツクが始めた事でありませう。シベルの部落を平けて、それからシベルの名が東西百四十度南北三十五度面積七十七萬三千方里に及び大陸の稱となりました。シベリアはかやうに廣大な國ではありませうが、何様世界の最寒國で、本邦の如きも其傍杖を受けまして、御蔭を以て北海道は「アジャのニウファアウンドランド」と申される。然しコサツク等は僅か六十年の間に

オホーツク海に出てしまつた。河を涉り森を越えて先へくと參つた。毛皮を得むが爲でありました。當時のロシヤの言葉では、シベリア方面へ毛皮狩りに出てゐる面々、狩人でありませうが、之を商人といつて居ります。賣るからでせう。一種の嘲り言葉でせうね。狩人みたいな商人みたいな變挺な奴。無料で以て取つて來て高い値に賣るからでせうね。丸儲けの商人といふ嘲笑的の言葉でせう。とにかく六十年でオホーツク海に出てしまつたのです。そこでオホーツクに例の城と住宅と兼帶の建物即

ちオストログを置きましたのは確か千六百四十七年、それからオホーツク海の北、あそこから海岸線を廻つてズツト参りまするとノベツに山が續いてる高い山です。其極高い峰が七千尺もありませう。連山で、ズツと山ですから、合間の峠々を通るのです。岩が兀々してゐて、雪が積つて居つて、之を越すのはなかく／＼危い藝當ですが、それには犬橇を使ひます。北の端のギシガにオストログを置いて、それから廻つてカムチアツカの半島チギル川がカムチアツカ州の北境で、半島の南端ロバトカ岬に近いボルシエレッツク河の畔に大きなオストログを建て、ボルシエレッツクと名づけ、之を首府と致して半島の經營を起しました。然しオホーツクの海岸を廻つてカムチアツカを占領するまでに四十年掛つてる。存外この年限が長いです。間に荒海がある、そこで北を廻つて行きました。それが難しかつたのです。ひどい處ですよ。現に

ハドソン灣會社の役員等がセントローレンス河の落口の北即ちラブラドルの南邊を經營するに當りまして、若も世界に地理上の地獄があるとすれば此處こそは地獄ならめ、と言つて居ります。それは實にひどい處だといふのです。話にも何もならぬといふのです。先刻申すやうな建築をして、ストーブをうんと焚いて、火傷でもしさうな程眞赤に焚いて、それに當つて、それで寒い。お負に身體には厚い毛皮の外套を被つてゐながら、それでもまだ寒い。飲水が直に凍つてしまふのです。狭い室に、眞赤になつて暖爐が焼けてるのにです。尤もさう側でもありますが、少し離れて居るのでありませうが、置いてある飲水が凍つてしまふ。室内がそれだといふのでありますから室外は言語に絶することでありませう。零下五十七八度まで下るといふことである。一人の食に大鴨三羽平げねば身體が暖まらぬといひました、チアツカ

に就いても類似の事が言はれてる。随分ひどい處だ、若も此世に地獄といふものが地理上あるならば、此カムチャツカこそ地獄であらう(笑聲)本統です。本統にさう寒いのです。此邊には春と秋はないので、冬と夏のみであります。七月の半から八月半まで、此夏の眞盛りの間、それでも往々朝霜が降りてさうです。山に圍まれた山陰は比較的氣候がなだらかで、海岸は頗る寒いといふこととあります。海岸は氷風が吹きますから尙ほ寒い。(笑聲)大麥が南方に於てカツ／＼登ります。外の穀物は到底出来ませぬ。サラダにはエゾツ、ジの花、水菓子にはシコタンマツの實、コケモモ、チシマイチゴ、ホロムイイチゴ、ウラジロイチゴ杯、汁には一種の昆布、魚は干鮭、肉は熊肉野菜は野生ユリ類の根―タケシマユリ、クロユリエソスカシユリの三種あり、前の二者を優品と致し、之をロシヤ語にてサラナと申します。因に申

上まするが、タケシマユリのタケシマは、松島竹島の總名たるタケシマ(武島)にて中井猛之進君は昨年始めて此島を踏査せられました。彼ユリが實に此島に野生しまするのを實檢せられたのであります。黄花の珍しきユリとして昔より聞ゆる所であります―を用ひるさうですから、ラブラドルと比べて見ますれば、比較にならぬほどに結構であります。とにかく晩餐の献立が出来ます。されば先に申しました若し地獄が此世にあるとせば是が恐らく地獄であらうといはれてるカムチャツカは仲々以て好い處であります。(笑聲)アラスカと來てはそれはひどいのです。大麥も出来ませぬ。迎もお話にならぬです。又野菜物ではポタンナも駄目です。豆が少し位出来ませぬ。それからカブラが出来ませぬ。けれども何れも水ツぽいです。チャガタイモは駄目だといふことです。肉はト、肉を用ひます。尤も弱すれば鴉でも鷲でも打つて喰

ひます。それは至つて雨のよく降る處、冬は冬、夏は夏で、雪と雨の降り通し、めつたに霽れないたまさか雨が降らぬ時には今度は霧が罩める。實にひどい。殺物は毛頭ないといつて宜しいのです。さういふ處であります。其代りに毛皮だけはウントある。(笑聲)斯ういふ方面ですね、斯ういふ方面の經營であります、初めはロシアの今申したコサツク、即ち商人、詰り狩人、其等が純粹なる強盜同様に、暴れ廻つて、土人を打殺して、土人の持つてる毛皮を奪ひ取るのであります。純然たる強盜でありました。だからして、いかに穩かな土人と雖も、怒つてしまつて、機會さへあれば奴等を打殺さうと掛つてる。お互がさうなんです。(笑聲)亂暴狼籍、言語道斷、お話になりませぬ。幸に當時の土人は御人好、弱虫でしたから、時々殺される位のこと、濟んだのでせうが、アメリカあたりでこんな眞似をしたら、皆叩き殺されるでせう。

さればこそアラスカ方面ではひどい目に遭つて居ます。土人が強いですからなかなか負けてゐませぬ。却てひどい目に遭はせませぬ。こちらは土人が至つて穩かであるのを、さういふ連中が亂暴をして土人を怒らせるのです。で、弱いといつても野蕃人ですから、時によると大變な事をやり出して打殺される者も可なり出來るといふ譯です。さういふ事をして居つては逆も仕方がありません。仕方がありませんからして、そこで此毛皮業の經營を眞面目にやり出したのがグリゴレイ、シエリホフといふ人であります。これは十八世紀の末の事。シエリホフは勿論眞面目な堅い人で、これこそ本統の商人でありました。此人が先づイルクトスに根據を置いて、一七八三年に出發して毛皮獸の狩場を巡視致しましたが、アラスカの狐島の主島たるウナラシカを探検して、其よりカチャク島に至り、オストログを建て此處を狩場の根據地と

定め、更に東の方を探検させまして、アフホニヤク島ケナイ半島にも夫々オストログを構へまして土人とも穩に交渉する道を開きまして、一七八六年に歸りましたが、ロシア人の毛皮商業は是より始まると申してよろしい。目的と致した毛皮の種類は數々あります。ラツコ、ビイベル、河獺、オットセ、黒狐、銀狐、赤狐、青貂、グラットン山猫、沼獺、青北極狐、白北極狐、狼、熊、ワルロス(くちらうま)牙杯が商品となります。此中でラツコが最も高價で賣れましたから、従つて毛皮の大宗、標準となつて居ります。次は黒狐、次は川獺とビイベルでありました。オットセはプリピロフ群島に夥しく、全く無盡の姿に見え、島の岩地はオットセに覆はれて了つて遠くより望むと眞つ黒であつたさうですが、此毛皮は駄物でありまして、専らキヤフタに於て支那貿易に用ひましたラツコはケナイ半島、アラスカ群島、千島得撫より出ました。黒狐はウナラシカとカヂヤクに優等品を産しました、殊にウナラシカ産は絶品としてありました。銀狐、北極狐は中等品で、赤狐は更に下ります。狼やグラットンでも良いのは銀狐と匹敵致します。青貂はカムチアツカより來ましたが本場でありませぬから駄目です。ビイベルはアラスカより參るが、やはり本場でないので下等であります。ワルロス牙は象牙より勝るといふことで、支那に於て評判が好つたのであります。かやうな上等の毛皮を滅茶々に土人から買取つたのです。土人が厭がらうがどうしやうがそんな事は構はぬ。是れくで寄越せ、寄越さなければ生命がいぞといつて脅すのでした。無茶苦茶です。全く強盜である。そこで、そんな事をして無茶苦茶に出した。それが千七百四十年から千七百八十年代の頃まで百萬枚から取つたといはれます。ラツコをです。當時の評判に、ロシアの國庫は此毛皮で

持つてゐるのだ、といふことさへ謂はれた位であります。随分極端な評判です。まさかさうでもないのでせう。併しよほど手傳をしたことは疑ひない(笑聲)一體當時のシベリア住民は滿期の重罪犯囚徒と故郷を喰詰めて高飛して來た破落戸と強制轉居人どより成り立つてまして、前の二者をラセイツと申した。ラセイツとはながれ人足のこと、朝鮮人は之に羅禪の字を充てゝ居る。強制轉居人といふのはロシアには御存じの通りシベリア轉居といふことがありした。一寸政府から何かの嫌疑を受けると、證據も何もいらぬ直ぐシベリア轉居を命じます。唯シベリアへ行けといふのです。例へば縣内なら縣知事が、何日何時までに縣廳へ出頭すべし、といつて來る。何用かと行つて見ると其方二十四時間を限りシベリア何々縣何所其所へ轉居すべし、と斯う來るです。そこで恐るゝ其理由を承らうとすると、答ふる限りにあらず。(笑

聲) 之れをシベリア轉居の命令といふのです。俗には放逐と申します。追ッ拂ひです。政府の嫌疑を受けると直ぐ之をやられる。やられた連中は是までも數十萬人あるさうです。仕方がないから行く、行つても食ふ物が無い。で、狩倉をやつて居ります。そこで、ロシア方面から來ました雜貨屋とか食料品屋に、雜貨や食料品やを、自分の狩をして得た毛皮を以て交換して貰ふ。さういふ商人は勿論足もどに附け込むのですから、毛皮をウソト取つて聊ばかりの品物と換へてやる。毛皮を是れ／＼出せ、餛飩粉を是だけやるからと、いふやうな譯で、どうも筈棒に高い値を以て交換させられる。それでも仕方がないのです。食物がないものですから、厭應なしに商人の言ふ通りになる。少し高いぢやないか、もう少し負ける、厭だ、高くて買へぬなら仕方がない、勝手にしなさい、それは困る、それぢや言ひ値に買ふか、いふやうな調子

で、詰らぬ品物を高價な毛皮と換へられてしまふかうしてウント儲けます。されば諸君は、毛皮商といふものはトツビに儲かるものだとお考へになりませう。所がさうでないのであつて、國務大臣を始め、シベリア總督縣知事、警察部長、下は郡長あたりに至りますまで、或はもつと下の奴までも、役人といふ役人の奴は悉く皆袖の下へ何か包まなければ言ふことを聽いてくれないのです。さういふ事に消えてしまふ金が莫大に多いのです。で折角儲けましても、商人の懷中には存外残らないのであります。とにかく彼等はさうやつて毛皮を集めどりました。併し役人もかはいさうです。馬鹿値の焼酎をあほると賭象碁をやるのが生てる證據でしたからね。

そこで、毛皮商をやつて行くには相當の資本が要ります。多少資本が確實でないぞやつて行けない。それで、ゴリコフ、シエリホフ合名會社といふ

一つの會社が出来ました。是が遂には物になりまして、詰り、此の會社が後のロシア、アメリカ會社の起りといふことになつてるのであります。是が一番マア始まりといふべきでありまして、後に色々の競争會社が出来ました。が、結局皆合同して此會社とラストキン、レベデフ合名會社だけになりましたのを一七九九年六月八日附の勅令を以て皇帝保護ロシア・アメリカ株式會社といふ名前の一つの大會社に纏めてしまつたのであります。さうして皇族などからも株主にお入りになる。又時の陛下即ちアレクサンドル一世御自身、それに皇太后、皇后、皇太弟いふやうな方々まで皆株をお持ちになります。で、此會社が大層なものになりました。旭日昇天、非常な評判のものになつてしまいました。シエリホフは一七九五年に死んでしまいましたが、彼は死んでも、彼の功勞は實に偉大なものでありましたからして、彼の其功に

よりまして、其妻及び子供が華族に列せられまし
た。大したものであります。先代の功によりて華
族。會社はさうして愈々發展といふことになりま
した。

さて、茲でロシア。アメリカ會社が日本と關係を
持つて來まするのは、それはどういふ次第かと申
しますと、此會社に授けられました任務の中に其
勢力範圍をアメリカ側に於て北緯五十五度以北の
全地方、アレウト群島、千島、其他太平洋東北の
島々と定めてありまして、五十五度以南の地方と
雖も、他國の領内に非る限りは、ロシア領として
探検拓殖すべしと命じてありますし、又航海の
安全を期する爲に在々處々に植民地とオストログ
を設置すべき由を申付けてあります。で、いづ
れに致しても外交員といふものが入用ですが、此
會社には特別に必要であります。第一、時の陛
下からして株主の中においてになる、皇太后様も

皇后様も皇太弟様もおいでになる、いふやうな譯
で、宮中と密接の關係がありますからして、どうし
ても顯貴なる外交員が必要です。そこでシエリホ
フの娘の聲に貴族でニコライ。レザノフといふ人
がある。シエリホフには娘が二人あつて聲が二人
あります。(笑聲) 姉娘の聲が社長で、妹娘の聲がレ
ザノフであるで、此レザノフは宮中向の外交員を
やつて居て、彼勅令の内容は此人の計畫に基いて
定つたらしいです。されば此會社の營業方針につ
いてもちやんと確定的の事が必要であるといふの
で方針を立てた。有體の事をいひますと南下膨
脹の方針である。そしてそれは斯ういふ事であり
ます。一體當時の所謂シベリア幹道といふものは、
ウラルを越えまして、トボルスクから、河と河との
間を横切りまして、トムスク、クラスノヤルスク、
イリムスクと通りウスチ。キルトスクから、夏なら
ば船に乗るのです。船に乗つて東北指してレナの

大河を下りヤクトスクに着く。今度は一番ラクに旅行しやうといふには、レナ・アルダン兩河合流の點より海岸山脈の西麓なるネルカン村まで一八四〇年代の荷馬車道にて四百七十里のアルダンの大原が一面に雪が降り積り、河が凍つて雪の大洋と化してしまふ時まで待つのです。愈さうなつた時に馬なり、トナカイなり、エルクなり、通例には馬糧で一直線に東へ東へと驅け抜けます。山も岡もありませぬ。眞平な原であります。其代り殊の外に寒い。雪の大洋ですね。吹雪の名物で聞えてます。一旦降り出しますと三日位やまない。仕方がないから積雪の内に天幕を埋めて潜つて居らなければならぬ。ごうすることも出来ない。寒い。さうやらつて海岸山脈の西麓の驛まで行かなければならぬ。海岸山脈は犬糧で越えます。この山脈を越えれば又オホーツク海に落ちる川筋に沿うて犬糧を走らせませぬ。かうしてやつとこせにオホーツクの港に着くのであります。さういふやうにして、穀物でも、彈藥でも、小銃でも、大砲でも、建築材料でも、造船材料でも、何でも彼でも、一切合切皆オホーツク海へ持つて行かなければならぬ。大變な費用が掛つて、大變な困難です。重い物で、到底運搬の出来ないものになりますと、仕方がないから其所へ放つてしまふのださうです。馬などは皆往復は能うませぬ。寒いし、重いし、するので、大抵途中で倒れるかどうかします。處々驛が置いてあります、大抵の馬は海岸山脈まで能う行かずに死んでしまふさうです。死んだ奴は勿論、弱つて間に合はない奴も放つてしまふのです。もう必要でなくなると、無事に生きてる馬でも放つてしまふのです。連れて歸りませぬ。慘酷な話ですが、連れ歩いては算盤が取れぬのでせう。うまくいかぬのでせう。(笑聲) 置去りです。斯の如くし

て年々數千頭の馬を見殺しました。それを何とも思つて居りませぬ。どうも惨い事である。十九世紀の四十年代に壹噸當運賃はイギリスの港よりアラスカのシトカ島まで、五〇乃至七八、七五ルーブルであつたのに、シベリア筋オホートスク港まで、五四〇乃至六三〇ルーブルに上つたさうです。さもあるべきであります。

そこでシエリホフの計畫をレザノフが引繼ぎ主張致しましたのは、イルクートスクを中心としてそれよりバイカル湖を渡り、シルカ河に沿ひ、アムル河の左岸を一直線に東へ、ウダ河の上流に出で、之を下つて後のアヤン港邊に於て太平洋に出る幹道を作つて欲しい、それは支那政府と懸け合へば出来る事であらう、成程直ぐといつては出来ぬかも知れぬが、たとひ面倒でも之をやらなければならぬ。それから何とか日本と通商しなければならぬ、日本と通商をして、日本からして色々な

材料を取らなければならぬといふ計畫、そこで恰度曾て時の總支配人デラロフがアレウト群島の某島——島の名は傳はりませぬ——に漂流して居たのを偶然に見付け出して、之を救つてシベリアに連れて參つた某々の本邦漂流人がイルクートスクに居りましたのを國情を疏通する爲に恰好の人物と認めまして日本へ送つて行つて、之を國として日本と通商をしやう、外交をしやう、いふので、レザノフは充分これが旨く行くつもりであつたのであります。然る所成功しませぬ。大變な不満で國へ歸りましたが、レザノフの考では、これは穩かに出てはいかぬから、仕方がない腕づくでやう、斯う考へました。松前島——北海道十州のこど——あれを荒したら宜からう、あの島を少し荒して、あそこ人間をおの島に居溜らぬやうに仕向ける。それから日本内地から貨物特に食料品があの方面へ行かぬやうにする。日本は山國である

から、陸路の運搬は困難である。依つて専ら海運を利用する。然るに日本の船は極弱い船であつて海岸から三里位よりは沖へ出得ない。それから先へ出れば破船してしまふ。だから一寸した巡洋艦を二三隻もやつて貨物運送船を打壞す、さうして海岸を荒したら、あの島は潰れてしまふであらう。二進も三進もいかぬやうにして、否應なしに降参させて通商を強いたらよからう、其の方が利益であらう、さうしやうといふことになりました。レザノフは此趣旨によりましてアレクサンドル一世へ建言しました。理由書を附して建白に及びました。さうすると朝廷では何と考へられたか御答がない。そこでレザノフは考へた。御答はないが、其儀罷り成らぬといふのではない。しても構はぬとも仰せられない。何とも答がない。無言である無言であるから、或は暗黙の承認かも知れぬ。黙認されるかも知れぬ。言く行つたら黙認だらうと。

一體ロシアは總て斯うなのです。無言で居りさへすれば一番宜い。成功すればよし、失敗に終つても、それは當方の知る所にあらず、甚だどうも狡い遣方です。(笑聲) 悪かつたら御隨意御處分の事(笑聲) これはロシアの慣例です。いつでもそれをやるのです。レザノフがさう考へたのは無理もないのです。尤もなんです。此時分に海軍中尉フウオストフ、同少尉試補ダウイドフの兩將校が會社に勤めて居ます。此會社に上手な船乗がないので、船乗を拵へる爲の先生、高等船員養成教師といふやうな格で、フウオストフは會社船エノー號に、ダウイドフは同アウオス號に艦長として、貨物の運送、船員の養成に盡力してました。會社船がオホートスクよりアラスカまで航績してくるやうになりましたのは全く兩將校の御蔭でありました。レザノフはエノー號に坐乗して處々を視察致し、歸途に左の命令書をフウオストフ中尉に授けまし

た。

ユノー號は、オホートスク港に入れ。アウオス號はサハリン島アニワ灣に於てユノー號の來着を俟つべし。フウオストフは、其間に得撫島を偵察し、其後アニワ灣へ向ふべし若し同灣に日本船碇泊せば、之に破壊せよ。其乗込員に就いては、健全なる者を選抜して之を捕虜とし、病弱なる者は之を放免して松前島の北部に赴かしめ、其處の住民に、サハリンはロシア領なるが故に、來航することを許さず、尤も商業の爲に來るはロシアの望む所、何時にても渡來勝手たるべき旨を諭告せしむべし。上手の職工、技術人を捕獲すること肝要なり。サハリンに於ける貨物倉庫は、逆め其在荷を沒收したる後悉く之を破壊すべし。土民に對しては、ロシア皇帝陛下御保護の下に仁惠深き安堵の生活を營むべきを約し、懇切に彼等を遇すべし。寺院の佛像は

悉く之を收め、後に至りアメリカへ廻送せよ。若し爲し得べくは、假令一名にても宜し、僧侶を取抑へよ。アメリカへ渡り、後にアラスカに移住すべき捕虜日本人等が安堵し并せて其親戚の者等をも呼寄するに至らしめむ爲なればなり。航海の目的に就いては、部下乗員に之を知らしむること堅く無用なり。(大意)

然るに船がオホートスク港に着きますと、レザノフは兼て授け置いた命令書を差出させまして上陸しました。そして奥書を書き加へまして改めて下渡し、直にイルクートスクへ向けて發足してしましました。其奥書は次の通りであります。

貴官の船の前橋は折れたり。向風は貴官の前進を妨ぐ。秋は貴官がアメリカへ急がるゝを要す。アニワ灣に於てアウオス號と會合する時機は已に去れり。漁業期は既に往きたれば、熱く望みたる成功を彼處に收めむこと覺束なし。尙ほ

予は各方面の情況を併せ考へたる上にて、貴官は可及的急きてノウオスアルハンゲルスクへ赴き、彼處の守備隊を増援せらるゝに若かずと決定したり。アウオス號は更に命令の來るを俟たずして歸帆すべきなり。

然りと雖も、若し風都合にてアニワ灣までも帆船するを得たらば、土人に懇切なるやう方めよ。彼等に記章進物を授けて彼處にある日本植民地の情況を調査せよ。貴官の任務は是にて充分なり。貴官がアメリカに歸るは、貴官の目的の爲に最大の重要事たらざるべからず。

貴官若しアウオス號に遇は、予の訓令を艦長に授けよ。貴官は航海中いかなる目覺しき働を爲すとも、會社の利益を嚴正に遵守せざるべからず。貴官の知識と經驗は、是命令を施行すると同時に必ず貴官最善の努力を致さしむべきなり。予に於ては、當港は橋を修理する能はざる

事又ある事情の爲に予は予の従前の計畫を變改せざるを得ざるを遺憾とす。

以上如何にも曖昧模糊たる文意であります。どうして宜いか何分判断がつかぬので、フウオストフは早速上陸してレザノフの旅館に伺候し面會を求めましたが、閣下は既に御出發をなされたとの挨拶。何如とも仕様がな、そこでつらく案ずるに、レザノフはあれだけ熱心に主張してゐたのであるから、まさか之を廢棄する積りでもない。況や政府からは左様な事をしては相成らぬといふ禁止の御達もない。只賛成の言葉がないといふだけである。そんなら寧ろ斷行しやうぢやないか。一番やるべし、本心は正にやりたいに違ひない、政府の明白なる御許がない爲に、あのやうな曖昧な事をいつてあるのであらう、言葉を濁してあるのであらう、一番やつて見やうといふので出掛けて來まして、北海道荒しをやる積りで、取

敢へずエトロフから始めました。それが始まりであり、あります。當時日本の幕府はまだ至つて幼稚なもので、外交とはいかなるものなりやといふことを知つてゐない。(笑聲)今日は外交といふものはいかなるもので、國際公法が戦時平時に分れて居つてどういふ事であるといふことを學校に於いて教へてくれますが、(笑聲)江戸時代の幕府といふものはさういふ事を夢にも知りませぬ。ハツと思ひました。勿論毛皮を収めてそれを以て國庫をどうしやう斯うしやうといふやうな事までは幻にも考へ附かなかつた。そこで、エトロフで捕虜になつて、オホートスクへ連れて行かれて、引續き六年間滞在して居りまして到頭逃げて歸りました、別飛の番人頭五郎次といふ男、微賤の者であります。が、適れな者であります。見上げた男です。此男の報告書があります。ロシア滞在中に、自分の偵察して置いた事の報告書です。それに、此會社は

ひどい損をして居る、年々幾らの損をして居るといふことの見積りなどもしてあります。それに相違なからうと思ふのです。確にさう思ふ。シベリア幹道の様子。會社の内情、皆其報告の通りであります。當時アレクサンドル一世の考といふものは存外穩かであつたのです。出先の者は随分惡疎な事をやりましたが、政府自らは存外穩かであつた。故に此際に於ては樺太の如きも、政府自らはロシア領と斷定して居りませぬ。レザノフこそはロシア領と斷言して居りますが、併しレザノフの考悉く政府の考では勿論ありますまい。で、さういふやうな經綸で、レザノフは、あゝいふやうな變挺な命令を下げて、それで以て經營に掛つたのであります。政府が尻押をしてくれませぬから失敗しました。これも考へまするに、當局がもう少し目が開いてたならば、言葉を換へれば、世界の太勢を今少し知つてたならば、早く樺太に手

を着けさへすれば、面倒は起らなかつたのであります。何も知らぬ明盲ですからあゝいふ事にもなる。當時の幕府は勿論大學者先生方も甚だ以て盲です。今日の中學生諸君よりも遙に目が暗い。物を知りませぬ。當時蘭學の泰斗が大家とかいはれた者でも、よく見るとお話になりませぬです。(笑聲) 成程御自分の専門の事は少しは知つて居りませう。(笑聲) 併し天下の大勢といふことは全く御存じない。是は或はさういふ方面の書籍はオランダ人が態と持つて來なかつたのでせう。(笑聲) 妄りにさういふ方の事を教へますと自分が危い。(笑聲) だから態とさういふ事の本や何かは隠したのであらうと思ひます。(笑聲) 無理もないのでせう。

纏りの附きませぬ事に長い時間を費しまして濟みませぬ次第でございます。これで。

(附記) 御参考の爲に一七九七年より一八二一年に至る年度に於

てロシアアメリカ會社が採收致しました毛皮の枚數統計を貴覽に備へます。前年度に比へましては著しく減少致したる由でありますか、其に致しても左の通りであります。

毛皮種	枚數
獅 虎	七二、八九四
ビイベル	三四、五四六
同上尾	五九、五三〇
川 獺	一四、九六九
カットセ	一、三三三、三七四
黒狐黒褐狐	一三、七〇二
銀 狐	二一、八九〇
赤 狐	三〇、九五〇
青 貂	一七、二九八
クラットン	一、一五一
山 猫	一、三八九
沼 類	四、八〇二
青北極狐	三六、二六二
白北極狐	四、二三四
狼	一一一
熊	一、六〇二